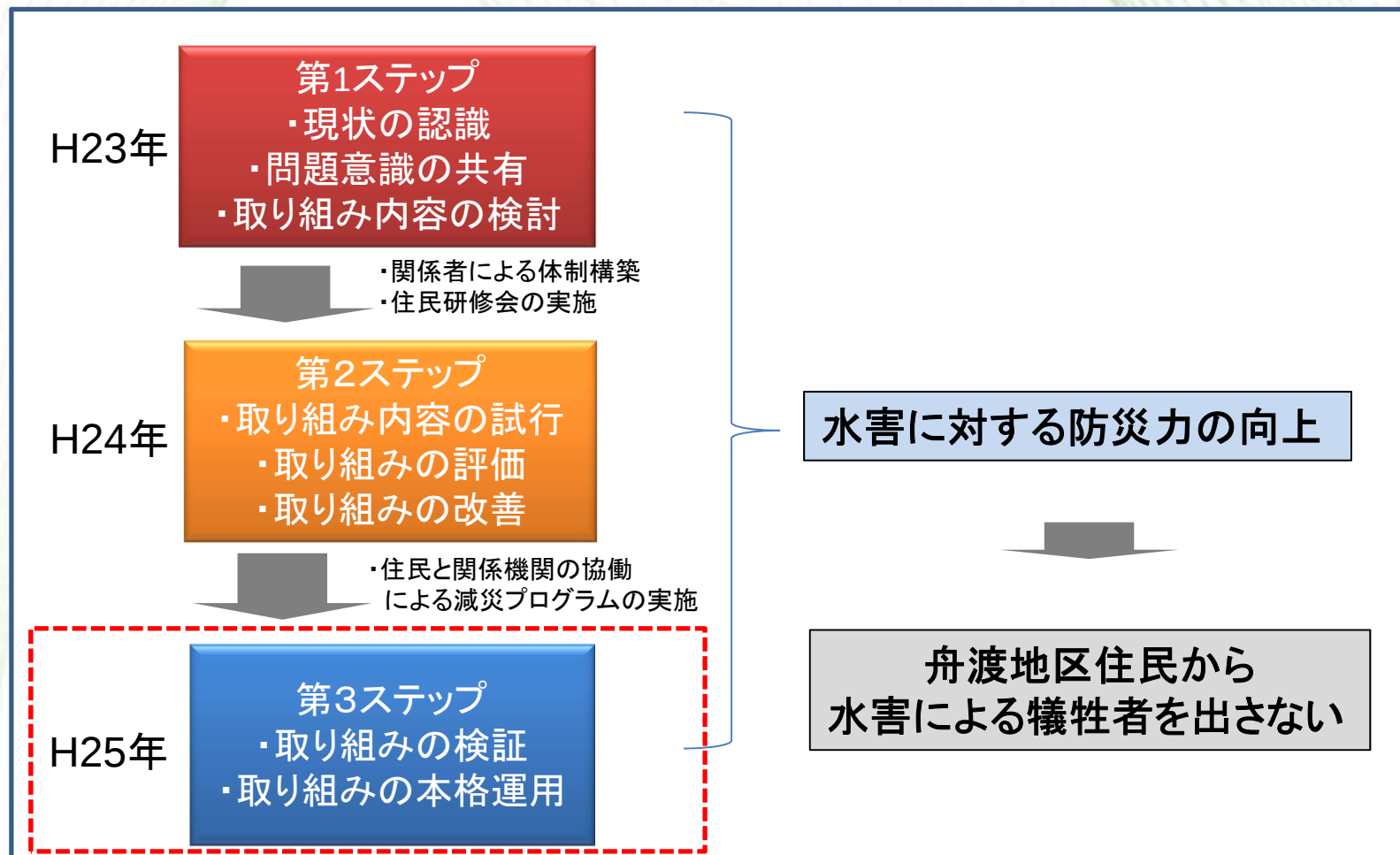


来年度の取組計画

平成25年2月21日(木)

1) プロジェクトの流れと最終成果目標



舟渡地区における避難ルール作り（冊子配布）

〔 水害時に近くて安全な避難場所を追加（企業などとの提携）
災害時要援護者の避難行動支援方法の確立 〕

2) 今年度の意見を踏まえた来年度の取組計画

【住民ワークショップによる意見】

■避難のタイミング

- ①携帯電話・スマホ・インターネットを使用した情報収集が有効である
- ②岩淵水門の水位と雨量が避難の判断材料となる
- ③防災行政無線の放送による板橋区からの「避難勧告等」を避難のタイミングとする
- ④病院と特養ホームでは対応に半日以上を要するため、河川水位情報を見て、はん濫警戒水位に達する半日前から行動を開始する。

■避難場所・避難経路・災害時要援護者

- ①水害時は停電によりエレベーターが使用できなくなることが考えられるため、階段を昇降できる人以外は高所避難は難しい
- ②地域外へ出る場合には中山道の渋滞が懸念される
- ③災害時要援護者の所在が把握できていない
- ④地域内企業による避難者の移送は可能である

■その他

- ①都営住宅の高層階の1部屋を物資の保管庫にできれば良い
- ②消費期限の近い備蓄品は、地域の訓練等で有効に使うべきである
- ③避難時の排泄処理について検討が必要である
- ④避難、救助等のための船(ボート)を確保することが望ましい

【実践的な取組みの方向性】

防災情報入手方法の習得

安全な避難場所・避難経路の
確認

備蓄物資・保管場所の確認

避難所運営手法の習得

3) 来年度取組み（案）

検討区分	目 的	取 組（案）
避難のタイミング	・避難開始のきっかけとなる防災情報等入手方法の習得を目指す。	■既存の防災情報を活用した取組みの実施 ①防災情報入手方法に関する勉強会（実習） ②災害時を想定した実践的な図上訓練 【連携が想定される機関】 ・板橋区 ・東京管区气象台 他
避難場所 ・ 避難経路 ・ 災害時要援護者対応	・「早い段階の避難場所」および「緊急時の避難場所」への避難の可否を確認するとともに、災害時に、より安全な避難が可能となる避難経路と避難場所を確認する。 ※災害時要援護者対応を検討	■地域防災力向上会議メンバーとの協働による取組みの実施 ①早い段階の避難を想定した長距離避難訓練 ※バス会社との連携 ②緊急時の避難を想定した高所避難訓練 ※高層マンションとの連携 【連携が想定される機関】 ・板橋区 ・志村消防署 ・志村警察署 他
その他	・備蓄物資保管場所の確認や災害時を想定した避難所運営手法の習得を目指す。	■地域防災力向上会議メンバー協働による取組みの実施 ①備蓄物資保管場所の視察 ②避難所設営訓練 ③非常食等による炊き出し 【連携が想定される機関】 ・板橋区 ・志村消防署 ・志村小学校 他 ※地域の民間ボランティア等との連携も検討

4) 来年度の取組スケジュール

第5回地域防災力向上会議(H25年6月予定)

◆本会議の検討内容

- ・H24年度の実施概要の確認
- ・H25度の住民研修会内容について

第5回アドバイザリー会議(7月予定)

住民ワークショップ(計3回予定)

第6回地域防災力向上会議(H25年12月予定)

◆本会議の検討内容

- ・H25年度の住民研修会の検証と評価

第6回アドバイザリー会議(H26年1月予定)

舟渡地区における「避難のルール」作成

5) 防災研修会企画(案) ①

■防災情報等の入手方法について

【目 的】 避難開始のきっかけとなる防災情報等入手方法の習得を目指す。

1) 日時

平成25年8月下旬予定 13:00～17:00の間で2時間程度

2) 対象者 (平成24年度住民ワークショップ参加者の継続参加者を主体とする)

■地区防災リーダー、地区内事業者、学校関係(PTA等)等

■10名程度×3班 程度 (計30名程度)

3) 実施内容

(例1)防災情報入手方法に関する勉強会(実習)

- ・パソコンや携帯電話(スマートフォン含む)を利用して、既存の防災情報入手方法を勉強する。

(例2)災害時を想定した実践的な図上訓練

- ・水害シナリオをもとに、地域内の連絡体制が本当に機能しているかを確認する。

5) 防災研修会企画(案) ②

■避難場所・避難経路・災害時要援護者対応について

【目的】「早い段階の避難場所」および「緊急時の避難場所」への避難の可否を確認するとともに、災害時に、より安全な避難が可能となる避難経路と避難場所を確認する。

1) 日時

平成25年9月下旬予定 13:00～17:00の間に2時間程度

2) 対象者 (平成24年度住民ワークショップ参加者の継続参加者を主体とする)

■地区防災リーダー、地区内事業者、学校関係(PTA等)等

■10名程度×3班 程度 (計30名程度)

3) 実施内容

(例1) 早い段階の避難を想定した長距離避難訓練

・長距離避難を想定し、地域内バス会社までのルートや所要時間等を確認する。

(例2) 緊急時の避難を想定した高所避難訓練

・地域内マンションを利用し、実際に人力で人をマンション上階に避難させる。

5) 防災研修会企画(案) ③

■ 備蓄物資・避難所運営について

【目的】 備蓄物資保管場所の確認や災害時を想定した避難所運営手法の習得を目指す。

1) 日時

平成25年10月下旬予定 13:00～17:00の間で3時間程度

2) 対象者 (平成24年度住民ワークショップ参加者の継続参加者を主体とする)

■ 地区防災リーダー、地区内事業者、学校関係(小学生、PTA)等

■ 10名程度×3班 程度 (計30名程度)

3) 実施内容

(例1) 備蓄物資保管場所の視察

・備蓄物資の保管場所を視察し、物資の種類や数量等を確認する。

(例2) 避難所設営訓練

・学校(舟渡小学校)の体育館等を利用し、簡易ベットやプライバシー保護のための「間仕切り」設営訓練を行う。

(例3) 非常食等による炊き出し

・その他訓練をあわせて、非常食等による炊き出し訓練を実施する。